

「統合レポート2024」発行に関連して 当社代表取締役社長荒賀誠の思いを 紹介します。

当社では毎年、事業内容や業績をまとめた「統合レポート」を冊子にまとめ、またそのデータをWebでも公開しています。今般、2024年版が完成しましたので、そこで掲載している当社社長インタビューを抜粋、再編集してご紹介します。

「企業理念の継承と事業の深化」

これは社長就任時に掲げた私の思いであります。また「変えてはならないものを変えない信念の強さ」と「変えなければならないものを変える勇気、いずれかの道を選ぶかの冷静な判断力」が大切だと考えてきました。変えてはならないものとは経営理念であり、企業理念の根底に流れる「誠実・信頼・感謝の心」を持ちながら事業展開をしていることだと考えています。そして変えなくてはならないものが事業活動であり、軸足はしっかりと地に付けながら、変化を恐れず、経営を行っていきたいと考えています。

中期経営計画達成に向けた課題認識

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応方針を開示し、取り組むべき課題として「営業利益率」「資本収益性」「資本市場との対話」を掲げています。

☆「営業利益率」については、成長性の高い環境ビジネスへの参入、事業セグメントの事業拡大につながるM&Aの実施、海外を中心とする新規顧客開拓、知財ビジネスの強化が必要だと考えています。環境関連のビジネスについては、2023年のイーセップ株式会社との業務連携による有機溶剤リサイクル事業について、今年には売上計上できるように形で市場参入を進めています。また、



当社代表取締役社長兼COO 荒賀誠

既存の事業セグメントについても、CO₂の削減など環境対応製品の開発を推進しさらなる事業の拡大を目指します。海外向けの事業については、昨年設立した子会社（日東精工アナリテック ヨーロッパ）を起点に、欧州市場の開拓・成長を確実に進めてまいります。知財ビジネスについては、ファスナー事業において、特許使用料を得ることで収益を生み出せるよう、体制づくりを進めています。また、メディカルにおけるマグネシウム関連の特許は海外数か国で特許出願しており、今後の製品化、市場参入を見据えて優位性を確保できるよう取り組みを進めています。

☆「資本収益性」については、キャッシュマネジメントシステム活用によるグループ負債の圧縮や資金の効率化を進めるとともに、昨年から実施している累進配当の導入や自己株式の取得により自己資本を圧縮することで、ROEのさらなる向上を目指します。

☆「資本市場との対話」については、投資家との対話推進および英文開示の充実が必要です。投資家の方との対話を通じて感じることは、広報がまだ十分ではないということ。たとえば健康経営銘柄となでしこ銘柄のダブル受賞は、時価総額や売上レベルで見れば当社が認定を受けるということ

は上場企業が数多あるなかで他に例を見ないことにもかかわらず、それが投資家の方にはさほど浸透していない。当社の強みを分析してわかりやすく伝え、投資家の方々に理解していただくことは大切だと思っています。

長期的な目標、会社として何を成し遂げたいか

究極の経営者の仕事は企業価値の最大化です。そのためには社員のエンゲージメントが大事だと考えています。エンゲージメントを高め従業員のやる気を高めて、以下の3つを推進していきます。

①事業区分・セグメントの再編

事業ポートフォリオの再編。現在は欧州では制御セグメントだけの展開ですが、将来的には全セグメントを欧州にも展開していきたい。インドでのM&Aも既存のファスナー事業を拡張、高機能部品の割合を増やしていく目的もあります。メデイカル事業も早期の製品化を目指しています。

②グローバル経営と地域貢献

売上高の海外比率を現在の4分の1から半分に増やすことを目標にしています。ただし本社は綾部に置き続け、創業理念を守り、地域の発展、地域雇用の創出に貢献もしていきます。グローバル経営と本社を綾部に置くというのは一見、相反することのように思えますが、当社の『我らの信条(社是)』にも「同時追求しにくいことを同時追求する」と説いています。

③日東精工グループブランド・品質の確立

日東精工が成長していくために、日東精工グループのブランド、品質を確立していく。それがひいては売上、利益につながっていくと考えています。



「統合レポート2024」では6ページにわたり社長インタビューが掲載されています。当社ホームページにも掲載。上記QRコードからお読みいただけます。

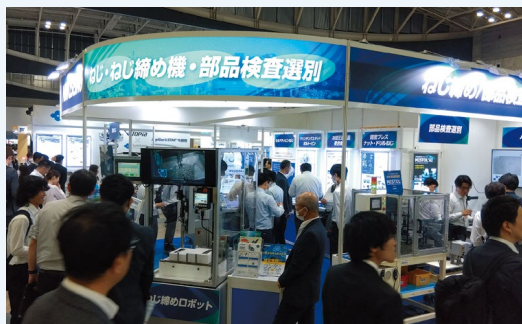
「人とくるまのテクノロジー展 2024 YOKOHAMA」

5月22日から24日までパシフィコ横浜で「人とくるまのテクノロジー展 2024 YOKOHAMA」が開催され、当社も出展。この展示会ではファスナー事業本部からは、防水ねじ、コンタミ対策ねじ（CPグリップ）、セルフタッピンねじ、薄板用セルフクリンチングスタッドボルト、溝付ピン、そして特殊冷間圧造部品、複合部品などを、用途、テーマ別に多数の製品を出展しました。

また産機事業本部からは、ねじ締めロボット「SR580Yθ-Z」と軽量単軸ねじ締め機「FM514C」（UR社協働ロボットへ搭載）を、制御システム事業本部からは部品検査選別装置「ミストルAI」を出展。さらに伸和精工やケーエム精工など関係会社の製品も併せて紹介し、それぞれがもつ〈高い技術力〉と日東精工グループとしての〈類まれなる総合力〉をアピールすることができました。

自動車はEV化が加速し、また来年開催される大

阪万博では「空飛ぶクルマ」が展示予定されるなど、今後ますます軽量化、省力化などの要求が増え、高付加価値の製品需要が高まっています。まさに当社にとって大きなビジネスチャンスです。当社では自動車分野を注力重点分野と位置づけ、こういった展示会を有効活用しながら、お客様との関係を深耕、あるいは新しいお客様を獲得し、日東精工グループの製品を伸長させていければと願っています。



工場見学会、研修などで 多くの方が本社を訪問

公益社団法人日本
監査役協会関西支部
の「大規模会社監査
実務」研修の場とし
て要請を受け、4月
12日に12名の各社監
査役の方々が来社、
本社での会社概要・
事業説明の後、八田
工場や城山工場など
を見学いただきました。
また4月24日には
松下政経塾の元塾
頭が主宰される「青年塾」と、地元綾部の有志による勉強会「大義の会」共同の研修会が当社で実施され、代表取締役社長荒賀誠が講演をいたしました。



上が日本監査役協会様ご一行。
下は青年塾、大義の会の研修の模様

新入社員が一丸となり 「由良川花壇展」に参加しました

当社本社がある綾部市では毎年、由良川河川敷で市民参加の花壇展が開催されています。

日東精工では地域貢献活動として、また新入社員研修の一環として、この「由良川花壇展」に参加。

新入社員が自分たちで決めたデザイン案をもとに、全員分担で植栽し完成させました。今年の花壇のテーマは「幸せのタンポポを運ぶコウノトリ」で、あやべから世界へはばたき、幸せを運ぶ企業でありたいというメッセージが込められています。



4月27日からの展示に向けて、成長をイメージしながら4月15日に皆で植栽

マレーシアの現地法人MPM社が 創立30周年を迎えました

当社のマレーシア連結子会社であるMALAYSIAN PRECISION MANUFACTURING SDN.BHD. (MPM社) が創立30周年を迎え、4月18日に記念式典を開催。日本からは荒賀誠代表取締役社長や役員陣が出席しました。MPM社は1994年1月に設立。工業用ファスナーの総合メーカー（月間1億本の生産能力）と幅広い商品を取り扱う総合商社としての両面の優位点を活かし事業運営を行っています。今後、QCDを含めたお客様対応力を高め、自動車業界へのシフトに注力するとともに、自動組立機械（ねじ締め機）などの取扱いも拡大し、より一層の事業拡大を図っていきます。



記念式典での
集合写真

当社外国人技能実習生が IPM広報誌に登場

本年4月に当社にて1年間の実習を終了したインドネシア技能実習生ファイズル・ハムザーが日本語能力試験で「N3」認定を受け、実習生の監理団体、国際労務管理財団（IPM）発行の広報誌「IPM News」5月号で「合

【N3合格】FAIZAL HAMZAH さん
(日東精工株式会社様)



子供の頃から日本の漫画が大好きで、日本語をかついと思っていました。
日本に来た目的の1つは日本語を勉強する事だったのでN3合格は凄く嬉しいです。
読解（漢字や文法）は漫画で勉強し、聴解は日本人従業員の
方々との会話で勉強しました。
会社で週1回、日本語の先生が来て、教えてくれたことも良かったです。
今後日本人の方と発音なども同じように話せるように勉強を頑張ります。日本で暮らしたいです！

IPM News5月号

格の感想、勉強方法」が掲載されました。当社では週に1回、日本語の先生を講師に招いて勉強会を開いているほか、実習生を地元中学校へ国際教育の講師として派遣したり、お祭りやスポーツイベントなどに参加させたりしながら、地域に溶け込んだより充実した研修になるようなプログラムを組んでいます。ダイバーシティインクルージョン（多様性の受容）の観点からも、当社では技能実習生を大切にしています。

合理的とは質を高めること

代表取締役社長

荒賀誠

脇

雅世さんという料理研究家があります。フランス政府から農事功労章を受勲し、最近では東京だけでなく、京都の町家を改装し二拠点で仕事をしていることがTVで紹介されていました。

その脇さんが「合理的」というと、時間を短縮するとか、体がラクになる、コストが抑えられるといったことのように思われがちだが、それは結果についてくるものである。合理的であることは、じつは質を高めること。そして、それを歴史ある欧州の暮らしのなかで学んだ」という趣旨の発言をされていました。

時短、簡単は、多忙な日々のなか

で大事です。しかし、そこだけに気をとられ、おいしさが後退するようでは意味がありません、また時短で浮いたその時間がなんのために使われるのかわかり見据えないといけないというわけです。便利な道具がたくさんありますが、それに振りまわされるのではなく、しっかり使いこなしていくことも大事ですね。

これは料理だけでなく、日々の暮らしや仕事にも当てはまるでしょう。たとえば安心・安全も料理同様、日々、われわれが大事にし、見直していかないといけないものです。その意義をしっかりと見据えて、常に合理的に〈更新〉していきたいものです。

「幸せ」を見つけるヒント — 6月

寄りかからない

有田佐一というあやべ出身の画家がいます。パリ滞在中に現代アートの巨匠・ジャコメッティを一瞬にしてとりこにし、ピカソやマティスなどが会員だった「サロン」へ日本人としてはじめて招待された方です。

この有田画伯の没後40年の回顧展が今年の8月、京都市京セラ美術館で開催されます。有田画伯は自分の作品が「金額」で評価されることをよしとせず、基本的に自分の作品を売ることをしなかった、そして中央画壇からの誘いを断って名声を求めることを

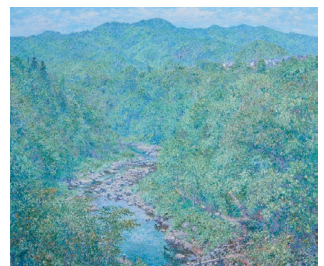
せず、あやべ郊外・山家で、ただひたすら自分が好きな絵を描き続けた人です。

「孤高の人」「仙人」と表されますが、じつは人と人とのつながりを大事にした、

愛に満ちた方で、孤高というよりも、信念をもって自らが立つ、他者に寄りかからない人だったといったほうがいいかもしれません。そして信じる道をまっすぐ生きる、その姿勢は大いに見習っていきたいと思います。

日東精工代表取締役会長
綾部商工会議所会頭

材木正己



山家村

